

JB Customer Report

カスタマーレポート

ORPHIS FW

岐阜県内で、実際に機械をご導入いただいたお客様の「生の声」をご紹介します！ 取材：営業部 営業企画推進課

学校法人 西濃学園 様

西濃学園の前原さんに2020年3月に導入されたORPHIS FW5230についてお話を伺いました。

ORPHISによって内製化へ！！

本学園では、学園創立当初から学園の活動内容・学校生活を保護者の方を初め多くの方に知って頂くために、月1回A3用紙1枚を半分に折った会報(4頁)を発行しています。発行当初は、両面印刷をした後の手折り作業を職員3~4人掛かりで行っていたため、時間と労力をかなり会報につき込んでいました。その作業をすることが月1回の恒例行事のようになっていた中で、両面印刷、紙折り、中とじを全て行うことが出来るORPHISを紹介頂き、職員の手間が軽減・業務効率化・教育書類のカラー化を今後視野に入れ職員室のセンターマシンとして導入を決めましたね。導入後は、印刷環境の劇的な変化を肌で感じ、職員皆喜びと感動がありましたよ。職員によって使い方は千差万別ですが、印刷=手間という概念がなくなりましたね。



パンフレットの内製化による伝える思いの強化！

学校に行けなくて悩んでいる子ども達も「素晴らしい個性」をもっています。そんな子供たちに温かい学びの場を提供してあげることが本学園の使命であると思っています。しかし、入学しないことには学校の雰囲気がなかなか掴めないと思いますので、学校案内パンフレットにはこだわりをもって作成しています。職員が内容を考え、実際の学園内の雰囲気を最大限に表現したパンフレットを目指していますが、以前は外注で納期の関係も有り、妥協しなければいけない点多々ありました。ORPHISが導入され、パンフレットを内製化する様になってからは、外注時に融通が利かなかった期中の細かな内容の変更も気軽に出来るようになりました。常に園内の新しい情報や写真にすることが出来るので、より学校の雰囲気が伝わりやすくなりました。内製化によるコストの削減にも繋がられているのでなお一層嬉しいですね。また、パンフレットは最初に1,000部ほどと大量に印刷をかけるため、印刷途中で他の職員の先生が急ぎの資料を印刷したい場合等も、「割り込み印刷」という機能を活用して、お互い待ち時間のストレスや他の職員の気遣いの必要なく印刷が行えている点も助かっていますよ。



教育現場のカラー化を目指して

本学園では教育の場でもカラー活用しています。例えば、音楽の授業では曲のイメージを連想させるために、曲に合わせた風景イメージをカラー印刷し配布しています。美術の授業でも、生徒が描きたいイラストをお手本としてカラー印刷を取り入れています。授業内はもちろんのこと、授業外での生徒へ注意喚起する資料なども、カラー印刷にして、重要な部分が一目で分かる資料作りにも心がけていますね。現場でカラー印刷が増えることで、生徒の授業に対する意欲や関心を高められていると感じますね。

生徒の学校内での活動、表情をカラー印刷することでリアルに伝える事が出来るので、通信や配布資料などカラー印刷に変えてから親御さんからの評判も高くなっているのを実感しています。生徒達の笑顔の写真をみた親御さんからは「うちの子はこんな表情もするんだね!」とお言葉を頂けたりもしましたので、こちらとしても嬉しく思っています。ORPHISはカラーコストが非常に安く気軽に出来るので、今後もカラー印刷をどんどん活用していきたいですね。

可能性を秘めたORPHISに期待

ORPHISは厚紙などの特殊用紙も対応していることは知っていましたが、今まで外注していた名刺もORPHISで作成出来ることをジムブレンさんからお聞きして、さらに可能性が広がりましたね。名刺なども内製化して、シーンに合わせたオリジナルの名刺などの作成を今後試してみたいですね!現在でORPHIS使用は2代目になりますが、まだまだ知らない機能・特長がありますので、ジムブレンさんに教えて貰いながら新しい印刷物に挑戦してみたいと思います。

営業担当者の声

西濃学園様にはこの度 X7250 から FW5230 ヘリプレイスいただきました。センタープリンタとしてのご使用に加え、フィニッシャー機能を利用しパンフレットも内製化されています。

FW5230 になり、給紙精度が上がり紙詰まりも軽減されたという事でこれまで以上にご利用いただき嬉しく思います。

特殊用紙などをご紹介します、より良い印刷環境を作り上げていくお手伝いをしてまいります。



営業担当：後藤 章元